

(シラバスNo.14)

科目名	プレゼンテーション特論	科目コード	24P-C2	
		科目群名	専門科目(C群)	
	Advanced Seminar on Presentation Practice	必修/選択	選択	
		教職	小・中・高	
担当教員	内田 友美	単位数	2	

【授業概要】

教師が一方向的に知識を伝えるだけでは、生徒の興味を引き出し、学ぶ意欲を高めることはできない。しっかりしたシナリオ、デリバリー力をつけるため本授業では、講義⇒演習⇒実践のサイクルを回すことで、「わかる」から「できる」、「できる」から「使える」状態にしていく。講義では、プレゼンテーションの必要スキルを細分化し、スキルを習得するためのセルフ・コントロールのポイントを学ぶ。演習では、講義で学んだポイントを個人、ペア、グループなど多様な形態で試行してみる。実践では、演習での試行を踏まえ、自分のテーマで、より実践に近い形でプレゼンテーションを行う。実践内容はビデオで撮影、確認し、各ステップにおける各自の課題を自ら明らかにし、改善していく。

【授業の到達目標】

教師として授業を行うだけでなく、学会や学内の会議、保護者とのコミュニケーションにおける提言・報告などあらゆるシーンで相手の立場に立った、わかりやすく、伝わりやすいプレゼンテーションができるようになることをめざす。

そのために2つの技術を身につけることを具体的な到達目標とする。

1. 相手に理解の負担をかけないロジカルなシナリオを構築する力を身につける（シナリオ力）
2. 相手の興味を引きつけ、相手の理解に沿って伝える力を身につける（デリバリー力）

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴>（毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください）

形態	実施	具体的に実施すること
講義	○	・プレゼンテーションに必要な基本スキルとは何か ・スキルアップのための課題設定の方法と克服の方法 ・シナリオ構築のセオリー4W1Hなど
グループワーク・質疑	◎	ペア、トリオ、グループでのトレーニングと相互評価
演習	○	与えられたテーマでのシナリオ構築、限られた時間内でのデリバリーなど、個人、グループ演習
プレゼンテーション	◎	ショート演習の成果発表、最終課題の発表など
制作	○	自己テーマのビジュアルプレゼンテーション資料
その他 ()		

【授業計画】

回	内 容
1	プレゼンテーションの3つのスキル
2	デリバリースキル・トレーニング（言語・非言語メッセージの注意点）
3	デリバリースキル・トレーニング（弱点の改善、強みの強化）
4	シナリオスキル・トレーニング（構成と具体性）
5	シナリオスキル・トレーニング（納得を引き出すシナリオ作成の方法）
6	提案シナリオ作成プロセス
7	問題の発見・分析と解決策の特定
8	4W1Hでロジックを構築する

9	提案シナリオの発表&講評
10	最終課題のシナリオ構想
11	ロジックチェック&ストーリー化
12	資料作成・ビジュアル化の工夫
13	最終課題の発表（ビジュアル・プレゼンテーション）
14	最終課題の講評&気づきの共有
15	リフレクションと現場での実践に向けて
試験	
<p>【履修にあたっての準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終課題をパワーポイントで作成してもらいますので、不安のある方は事前に事務局に相談し支援を受けてください。プレゼンソフトは、パワーポイント以外のものを使用しても構いませんが、作成データの共有、プロジェクターとの親和性などを事前にチェックしておいてください。 メディアで参加される方も、可能であればスキル・トレーニング、特にデリバリースキル・トレーニングは教室で受けていただくことより効果が高まります。無理のない範囲で検討してください。 	
<p>【授業外学修（予習・復習）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業のパワーポイントをテキストとして配布しますので、実践演習等で明らかになった自身の課題を次の授業までに繰り返し実践し、できるようにしてきてください。 学んだセオリーを活用する課題が出ますので自宅で作成してきてください。 <p>※いずれも授業時に指示を出します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への貢献（他メンバーへのコメント&アドバイス、演習成果）50% 課題（宿題、最終プレゼンテーション）50%により評価する。 評価基準は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 与えられた時間を効果的に使い、相手にとって価値ある内容を明確に伝えることができる（シナリオスキル） ② 相手を引き込み、テーマに集中させることができる（デリバリースキル）。 ③ 常に自分の意見、考えを持ち、思いを込めて伝えることができる（プレゼンス）。 	
<p>【教科書】</p> <p>HRインスティテュート（野口吉昭、内田友美ほか）（2008） 『プレゼンテーションのノウハウ・ドゥハウ』 PHP文庫（ISBN：978-4-569-67061-4） ※授業のテキストは各回配布します。教科書は授業終了後の復習に活用してください。</p>	
<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> カーマイン・ガロ（2010） 『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン』 日経 BP 社（ISBN：978-4822248161） 山田 ズーニー（2003） 『あなたの話はなぜ「通じない」のか』 筑摩書房（ISBN：4480877533） 森重 湧太（2016） 『一生使える 見やすい資料のデザイン入門』 インプレス（ISBN：9784844339632） 学習指導要領及び解説（小学校・中学校・高等学校）：文部科学省 	